



ゆみこの日記



デフリンピック成功に向けて
市議会議長に協力を要請

12月16日(月)、福島市聴覚障害者協会の西山会長、福島県聴覚障害者情報支援センターの山田所長とともに、今年11月に開催されるデフリンピックに対する認知度向上への協力と、Jヴィレッジが会場となるデフサッカーの応援を萩原太郎市議会議長に要請し、デフリンピックのピンバッチを贈呈しました。

—社民党県連合—

「2025年新春旗開き」に参加しました

1月19日(日)、福島グリーンパレスで開かれた「二〇二五年 社民党県連合・新春旗開き」で、社民党の自治体議員としてご挨拶しました。
「がんこに平和！くらしが一番！」のスローガンを胸に、社民党の議員として精一杯頑張る決意を新たにしました。



県内の社民党の自治体議員の皆さんとともに頑張ります！



(左は石山波恵市議)

建設水道常任委員会で
市街化調整区域を視察

11月15日(金)、岡部根深・前田地区、飯坂町平野地区、仁井田地区へ市街化調整区域における地区計画の状況を視察しました。
岡部地区(写真)は宅地133区画で、浸水想定区域として1.5メートルの盛土を行い、全体で5,300トンの溜池を計画しています。
計画地には商業施設も入り、地域振興も図られますが、活性化に伴う道路整備も必須と思われる。

「ハッピーコンサート」



楽しかった！

12月14日(土)、小倉寺町会うたの会主催「ハッピーコンサート」が開かれました。4つのグループに分かれて、それぞれが特徴を生かし、楽しい発表会になりました。私たちのグループは「フニクリフニクラ」を「オニのパンツ」に言い換え、踊りを交えて発表しました！

三浦ゆみこと歩む会



ぜひ、歩む会の
会員になって下さい

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

TEL / FAX : (024) 563-1539

E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.6

2025年1月



12月定例会議でも質問に立ちました



2025
新たな年を迎えて

新しい年を迎え、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年は、アメリカではトランプ氏が大統領に返り咲き、日本をはじめ世界情勢に影響を及ぼすことでしょう。また国内において、石破首相が7月に衆参同日選挙となる可能性を否定せず、ダブル選挙も考えられます。

「2025年問題」として団塊の世代の皆さまが75歳を迎えられ、国民の5人に1人が後期高齢者になります。こうした中、医療や介護体制をどう充実させていくのか、働き手不足の問題にどう向き合っていくのかが問われています。

こうしたさまざまな課題を受け止めながら、市民の声を議会質問に繋ぐよう、いっそう努めて参ります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

12月定例会議では4項目について質問してきました。
今年11月に、日本で初めて聴覚障がい者の国際スポーツ大会、デフリンピックが開催されます。これを契機に、障がい者への理解を深める取り組みをどのように進めていくのか、質問してきました。
また、今年4月から始まる「新制度のシルバークレジット」について質問し、市長から利用実態等を検証したうえで必要に応じた見直しも検討するとの答弁を、ようやく取り付けることが出来ました。
今年も、生活に密着した問題に粘り強く取り組み、成果に繋がられるよう努めて参ります。

くらしの声を
市政に繋ぎ、活かすために

三浦由美子



12月議会で一般質問に立ちました — 裏面にダイジェスト版を掲載しています

■ 質問項目 ■

- 1 デフリンピックを契機とした障がい者への理解・関心を深める取り組みについて
- 2 新制度のシルバーパスポートについて
- 3 介護職員の処遇等について
- 4 高齢者を支える地域体制づくりについて

デフリンピックを障がい者への理解を深める契機に

デフリンピック開催まで、残り1年を切り、いよいよ今年11月開催となることから、市民の関心を高める取り組みと併せて、障がい者とのコミュニケーションツールである「手話」に触れる機会を増やすなど、デフリンピックを契機とした障がい者への理解や関心を深める取り組みへの要望も含め、質問してきました。

デフリンピックについては、木幡市長より、障がい者スポーツの振興に努めてきた実績や「福島市手話言語条例」を制定してきたことに触れながら、「より多くの市民に関心を持ってもらうことは共生社会の実現を進める本市にとっても大変意義がある。今後ともさまざまな機会を捉えて応援ムードの醸成に努め、デフリンピックの普及、啓発を図っていく」との答弁がありました。

また、市民・文化スポーツ部長からは、「手話出前講座」の場を活用して主に市内小中学校を対象とした「東京2025デフリンピック」に向けた啓発の取り組みが行われていることが報告されるとともに、シティハーフマラソンやさまざまなスポーツイベント開催時における効果的な広報を検討していきたいとの答弁がありました。



高齢者の社会参加を応援できる制度に — 新制度「シルバーパスポート」 —

「シルバーパスポート」申請状況(2024年11月30日現在)

- 32,700人(対象者の66%)が申請、23,000人が審査済み
- ・バス/飯坂線+タクシーの申請者数 約18,000人(全体の78%)
 - ・バス/飯坂線の申請者数 約5,000人(全体の22%)

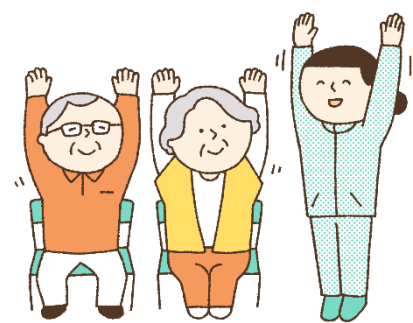


いきいきした介護現場をめざして

「令和5年度福島市介護職員等サービス従事者不測の実態等に関するアンケート調査」で明らかとなっている、介護職員の人員不足問題について、人材の確保、定着に向け、処遇改善をはじめとする市の取り組みについて質問しました。

これに対し、健康福祉部長より、介護職資格取得のための費用の8割を助成する事業や元気高齢者を対象とした介護助手セミナーの開催、若い人向けの介護職PRビデオの配信など、人員確保に向けた市の取り組みと実績が紹介されました。

また、質問の中で、処遇改善の具体策として「市独自の介護報酬加算」と「介護職員への補助金支給」の検討を求めましたが、健康福祉部長からは「国に働きかける」以上の回答はなく、市独自の取り組みについての言及はありませんでした。



傍聴して下さった皆さん、ありがとうございます！



皆さんの傍聴に
大変励まされます！



老後の安心・安全を地域ぐるみで

高齢者数の推移と人口動向から、高齢化率の上昇、超高齢化社会への移行に加え、単身高齢世帯や夫婦のみの高齢者世帯のさらなる増加が見込まれる中、「見守り活動」をはじめとする地域ぐるみの取り組みや、そうした活動への市の支援について質問しました。また、介護ロボットなどのICT導入や政府が打ち出した「新しい認知症観」について、市の所見を伺いました。

これについて、健康福祉部長より「高齢者全体を支える自助・共助・公助による地域包括ケアシステムの充実を図る」とした上で、「一人暮らし高齢者や夫婦のみの高齢者世帯に対しては、ICT技術を活用した見守りや安否確認などの支援策を強化していく」との回答がありました。

- 今回の定例会議では、
 - ① 聴覚障がい者の国際大会「デフリンピック」を福島市でも盛り上げたい！
 - ② 新制度シルバーパスポートに「タクシー利用のみ2万円」を検討してほしい！
 - ③ 介護職の人材不足を解消したい！
 - ④ 高齢者を支える地域体制を作りたい！
- との思いを込め、4つの質問をしました。この4つのテーマは、“思いやりのある社会を”との思いに根ざしたものです。

- 昨年4月に障がい者への理解を広げるための「障害者差別解消法」が改正されました。「合理的配慮」や「バリアフリー」の考え方には、精神的な側面と物理的な側面があります。私は、障がい者に対してだけでなく、子どもたちや高齢者に対しても、こうした考え方が共通して求められてると思っています。

- 今年2025年は、団塊の世代が後期高齢者になります。高齢化社会に拍車がかかる中、介護職員の不足が問題となっています。また同時に人口減少も深刻です。

- 「合理的配慮」や「バリアフリー」の考え方が全ての人に広まれば、人を大切にする心が育まれ、今よりもっと安心・安全な暮らしに繋がると思います。高齢者は健康で長生きし、子供たちは地元ですくすくと育つのではないかと思います。

- 障害者も特別な人ではなく、誰もが当たり前のように、健やかな生活をおくることができる社会づくりが必要だと思うのですが、皆さんはどう思われるでしょう。

- 私は、毎回、必ず質問に立つこと、そして成果を出すことを目標にしています。今回の成果は、何度も質問をしているシルバーパスポート事業について、市長から「新制度のシルバーパスポートが始まってから、見直し検討する」と答弁を頂いたことです。

- 利用に上限額が設定されたことは“福祉の後退”であり、本当に残念ですが、今後、利用状況や実態を注意深く検証しながら、高齢者に優しい制度となるよう取り組んでいきたいと思っています。

- そして、市民の暮らしに寄り添う優しい福島にしていきたいと思っています。